

みやぎの

2月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.204 2024.2

紹介内容 (1/1 ~ 1/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大崎農改：大崎農業士会第2回研修会
 - 仙台農改：令和5年度農業法人ステップアップセミナーの第2回が開催されました
 - 石巻農改：パソコンによる農業簿記研修会を開催しました！
 - 登米農改：東和稲作部会の総合検討会が開催されました
 - 亘理農改：亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
 - 大河原農改：令和5年度仙南農業士会現地視察研修会と交流会が開催されました！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 3
 - 大崎農改：新規就農者支援事業のサポート巡回をしました
 - 大崎農改：みやぎ農業未来塾 水稻栽培技術勉強会
 - 大河原農改：宮城県大河原産業高校 ～地域人材講演会～ 開催
 - 大河原農改：仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会、仙南マルシェで販売会
 - 石巻農改：石巻地域生活研究グループ×ベジ☆hope 料理交流会開催！
 - 仙台農改：高山真理子氏が農業・農村女性活躍表彰の最優秀賞を受賞されました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「第2回農業力資質向上講座」を開催しました
 - 気仙沼農改：宮城県農業・農村女性活躍表彰で最優秀賞を受賞されました
 - 気仙沼農改：令和5年度気仙沼地区農村教育青年会議が開催されました
 - 大河原農改：株式会社館島田ファーム Dero がスタートしました
 - 仙台農改：みやぎ農業未来塾「インボイス制度への対応について」を開催しました
 - 気仙沼農改：農業適正使用研修会を開催しました

- ③ 園芸産地の育成・強化支援・・ 6
 - 石巻農改：宮城県園芸特産振興プラン（石巻地域）の中間検討を行いました！
 - 大河原農改：ぶどう・なしのせん定研修会を開催しました！
 - 登米農改：JAみやぎ登米ねぎ部会品種説明会が開催されました
 - 大河原農改：ぶどうせん定講習会が開催されました！
 - 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催のりんごせん定講習会を開催しました
 - 石巻農改：「異常気象に負けない野菜生産セミナー」を開催！
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会の曲がりねぎ出荷講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：南三陸町で令和5年度第3回シャインマスカット栽培研修会を開催しました
 - 仙台農改：大郷町で令和6年産えだまめの作付計画検討会を開催しました
 - 栗原農改：令和5年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました！

- ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 美里農改：第2回「吟のいろは」栽培研修会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○大崎農業士会第2回研修会 令和6年1月18日 大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

令和6年1月11日に管内の農業士で組織する大崎農業士会が今年度2回目の研修会を開催しました。今回の研修では、令和6年1月から義務化された電子帳簿保存法について学ぶこととし、古川税務署の職員からこの法律の具体的な内容について、株式会社ソリマチの職員から電子帳簿保存法に対応した会計処理ソフトの概要についての説明をいただきました。

参加した農業士の方々は、関連書類の具体的な処理方法などこれまでよりも理解を深めることができました。

普及センターでは、今後もこのような研修会の開催などを通じて農業士活動に対する支援を行ってまいります。

○令和5年度農業法人ステップアップセミナーの第2回が開催されました 令和6年1月19日 仙台農業改良普及センター



令和5年12月21日、仙台市のJRフルーツパーク仙台あらはまを会場に、第2回令和5年度農業法人ステップアップセミナーを開催しました。本セミナーは、管内農業法人で喫緊の課題となっている「事業承継」をテーマに、経営者や新たな担い手候補の方を対象として開催しました。講師には、松倉恵子特定社会保険労務士をお迎えし、「事業承継に向けた最初の一步」として、承継の進め方を実践的に学ぶワークショップ形式で講義を行いました。

ワークショップでは、参加した生産者4人と、関係機関がグループを組み、自身の仕事内容や会社での役割、今後の引継ぎ方について意見を出し合うなど、積極的に取り組んでいました。講義終了後は「仕事が引き継ぎやすいように、社内でのコミュニケーションを円滑に行えるようにしたい」、「組織の中で、仕事内容に関する共通理解を図りたい」などの前向きな声をいただきました。

普及センターでは今後、各農業法人が抱える課題を明らかにし、継承計画について考えるきっかけ作りを行うとともに、具体的な支援策について関係機関と連携して専門的支援を実施することとしています。

○パソコンによる農業簿記研修会を開催しました！ 令和6年1月26日 石巻農業改良普及センター



令和6年1月22日（月）に、管内の若手や女性農業者の経営管理能力の向上を目指して、パソコン農業簿記研修会を開催しました。

管内の農業者5人が参加し、決算仕訳、決算書の作成の演習を行いました。

講師のソリマチ株式会社門田リーダーのわかりやすい演習により、全員決算書の作成ができるようになりました。また、インボイス制度が令和5年10月1日から、電子帳簿保存法が令和6年1月1日から施行され、その概要や記帳方法について説明があり、参加者は法律に対応できるようになりました。

普及センターでは、今後決算書を使った経営分析ができるように支援を行ってまいります。

○東和稲作部会の総合検討会が開催されました 令和6年1月29日 登米農業改良普及センター



令和6年1月25日にJAみやぎ登米東和稲作部会の総合検討会が開催され、生産者、メーカー、関係機関あわせて約30人が出席しました。

普及センターからは昨年の稲作の総括と6年産に向けてのポイントについて説明しました。昨年の夏の異常な暑さを経験し、6年産では高温対策に取り組もうとする生産者も多く、晩期栽培を実現するための方策など活発な意見交換が行われました。また、肥料・農薬メーカーから土づくり資材や除草剤の上手な使い方などの説明があり、生産者は熱心に耳を傾けていました。

最後に普及センターのプロジェクト課題として取り組んでいるグリーンな栽培体系の実証試験結果について紹介を行い、広く周知することができました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました

令和6年1月29日

亘理農業改良普及センター



管内の農業法人や個人農家を対象に、雇用・労務管理能力の向上をねらいとした亘理名取地区地域営農推進研修会を、令和6年1月12日に開催しました。

すずき労務経営コンサルタンツ代表の鈴木大輔氏を講師に招き、「農業法人等の雇用・労務管理」をテーマに御講演をいただくとともに、参加した経営体それぞれの課題や疑問について意見交換を行うグループワークを実施しました。

講演では、従業員を確保するためのポイント、後継候補者の受入・育成について、関連法令に基づく適切な運用方法や様々な取組事例等の説明があり、参加者は熱心に聴講していました。

また、グループワークは、各参加者が現在の課題を付箋に書いてホワイトボードに貼り、対応策や意見を出し合うことで進められ、最後に鈴木先生から助言をいただきました。

特にグループワークでは、「従業員の勤務時間の管理」や「定年制の必要性」等の課題が参加者間で共有され、熱心に意見交換が行われました。参加者からは、

「同じような悩みを持っていることがわかった。」、「工夫されている内容がよくわかった。」等の声が聞かれました。

普及センターでは、管内の農業経営体の発展のために今後も支援を行ってまいります。

○令和5年度仙南農業士会現地視察研修会と交流会が開催されました！

令和6年1月30日

大河原農業改良普及センター



令和6年1月18日に大河原管内で、仙南農業士会視察研修会と交流会が開催されました。

今年度は、仙南農業士会会員のうち、青年農業士の経営をメインに視察しました。

視察先は、丸森町のはるはなファーム株式会社、角田市の株式会社岸浪園、角田市の合資会社ばば農場の3経営体です。

はるはなファーム株式会社と株式会社岸浪園は、花苗生産を行っている法人です。

両法人とも地域の方を中心に雇用しており、栽培管理マニュアルの整備やデジタル化による管理の省力化を行っています。

合資会社ばば農場は、肉用牛（繁殖・肥育）と水稻生産を行っており、亘理町、山元町、角田市、福島県の耕種農家と耕畜連携活動を行っています。

また、おからを原料とした自給飼料の調製も行い、経費削減に努めています。

参加した農業士会員は、効率的な生産管理の手法や、従業員に配慮した雇用環境の整備、異なる経営部門の農家との連携方法について学んでいました。参加者の多くは、水稻農家と酪農・肥育農家でしたが、

同じ地域の先進的な経営体から刺激を受けた様子でした。

参加者からは、「同じ管内でも見る機会がなかった経営体の視察ができて勉強になった」、「農業士会のイベントでなかなか会えない会員もいるが、こういった機会に会えてよかった」とコメントがありました。

②新たな担い手の確保・育成

○新規就農者支援事業のサポート巡回をしました 令和6年1月9日 大崎農業改良普及センター



令和5年12月20日（水）と22日（金）の2日にわたり、大崎市と連携して新規就農者支援事業のサポート巡回を行いました。

今回は、平成28年度から令和4年度に畜産経営（繁殖牛・酪農）で就農した6名と、耕種農業（水稲、野菜）で就農した3名を対象に巡回し、就農計画の達成状況や営農状況の確認と、問題点や今後の課題について意見交換をしました。

巡回した認定新規就農者は、概ね計画どおりの規模で経営していることが確認できた一方で、意見交換では飼料価格の高騰や牛販売額の下落、猛暑の影響や天候に左右され思うように収量が伸びなかった等の悩みも聞かれました。しかしながら、それぞれに工夫し、前向きに経営に取り組む様子もうかがえました。

今後とも普及センターでは、認定新規就農者の就農計画が達成されること目指し、関係機関と連携しながら、支援していきます。

○みやぎ農業未来塾 水稲栽培技術勉強会 令和6年1月9日 大崎農業改良普及センター

水稲作業に携わる新規就農者や雇用就農者を対象に、水稲栽培の基本技術習得と暑かった今年の稲作を振り返り、来年に向けた技術を確認するため、令和5年12月21日、みやぎ農業未来塾スキルアップ講



座～水稲栽培技術編～を開催しました。みやぎ農業未来塾では1～5年目までの新規就農者を対象に専門的な技術・知識の習得や経営能力向上のための講座を開催しています。今回は4名が参加しました。

はじめに、「水稲栽培のキホン」として、普及センター作物担当が講義を行い、水稲の収量や品質に影響を与える要因や、効果的な雑草の防除、苗づくりの基本について説明を行いました。

その後、今年の稲作の状況を参加者に話してもらいました。「収量や品質に課題が残った」、「雑草の防除が大変だった」などの話が出され、また、「それに自分はこう対応している」などの対策も出されるなど、活発な情報交換がなされました。

普及センターでは、今後とも若手農業者の技術・知識の向上や仲間づくりの支援をしていきます。

○宮城県大河原産業高校 ～地域人材講演会～ 開催 令和6年1月12日 大河原農業改良普及センター



宮城県大河原産業高校では、地域の産業に関する理解を深めるとともに生徒たちの社会意識を高める機会として、「地域人材講演会」を全校生徒225名を対象に令和5年12月13日（水）に開催しました。

仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会会員と大河原農業改良普及センター職員が講師となり、農業や食糧に関することや起業や地域起こしについて、お話ししました。

普及センターからは、「日本と世界の食糧」と題し、日本の食糧需給の状況や世界で加速する食糧危機の現実を伝えるとともに、「新規就農について」と題し、新規就農の現状について解説しました。

農村青少年クラブからは、「仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会の紹介」に始まり、「木華ができるまで～きくらげ農家のお話～」と題し、きくらげ栽培での起業と商品づくりの経緯と「夢はキャンプ場併設のたのしい観光果樹園を運営すること」と題した、廃園となったなし園を、地域の協力を得て、復活させる取り組みが紹介されました。

生徒たちはメモを取りながら熱心に聞き入り、将来の自分の進路の参考にしていきたいとの感想がありました。

○仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会、仙南マルシェで販売会
令和6年1月12日
大河原農業改良普及センター



仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会の会員4名が、12月22日に開催された「せんなんマルシェ in 大河原合庁」に参加しそれぞれの自慢の農産物、農産加工品を販売しPRを行いました。

極良食味の「だて正夢」や自社加工の「梅干し」、お寿司屋さんが握った「きくらげの稲荷ずし」、「サツマイモ」や「キャベツ」といった野菜など、盛りだくさんの内容でした。

また、キッチンカーの出店や地域の物産の販売も数多くあり、寒空の中、販売開始前から、近隣住民の方が大勢訪れ、思い思いに買い物を楽しんでいました。

○石巻地域生活研究グループ×ベジ☆hope 料理交流会開催！
令和6年1月16日
石巻農業改良普及センター



令和5年12月13日（水）に、「石巻地域生活研究グループ連絡協議会（以下、生活研究グループ）」と若手女性農業者の組織「ベジ☆hope」による料理交流会を開催しました。生活研究グループからは3人、ベジ☆hopeからは5人、普及センターからは3人の計11人が参加しました。

今回の交流会では、各グループが講師を担当し、お互いに料理の紹介を行いました。生活研究グループからは会長の特製「焼肉のたれ」、ベジ☆hopeからは講師を担当した会員のふるさとの味である愛知県の「鬼まんじゅう」が披露され、普及センターからは焼き肉のたれを使った「カオマンガイ」と「やみつきキュウリ」を紹介しました。

当日は急遽ベジ☆hopeの講師を担当した会員が欠席となりましたが、皆で協力して時間内に完成させることができました。初めて挑戦する料理もありましたが、参加者たちは口々に「美味しい」「このようなアレンジができるとは知らなかった」などと感想を述べ、世代を超えて交流していました。

来年も開催を希望する声があることから、今後も交流を深めていきます。

○高山真理子氏が農業・農村女性活躍表彰の最優秀賞を受賞されました
令和6年1月19日
仙台農業改良普及センター



右から2人目が高山氏

令和6年1月11日に夢メッセみやぎにおいて、2024農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会が行われ、そのなかで農業・農村女性活躍表彰式が開催されました。

この表彰式において、仙台市若林区で野菜を生産している高山真理子氏が女性地域社会参画部門の最優秀賞を受賞しました。

高山氏は、平成17年度に「マリズファーム」を立ち上げ、約3ヘクタールの農地を活用して、一般的な野菜からハーブや西洋野菜に至るまで、少量多品種の野菜を生産しています。

仙台市の女性農業グループ「なのはな工房」や「フェムリエ仙台」の代表として、女性農業者の活躍の場を広げるとともに、多くの農業研修生を受け入れ地域農業の担い手育成に貢献されてきました。令和2年度には宮城県指導農業士に就任し、模範となる農業者として、後進の育成にも取り組んでいただいております。

仙台普及センターでは、地域農業の担い手育成のため、モデルとなる農業者と連携しながら、農業における女性活躍の場を広げる取り組みを支援してまいります。

○みやぎ農業未来塾「第2回農業力資質向上講座」を開催しました
令和6年1月23日
亘理農業改良普及センター

令和6年1月17日、亘理農業改良普及センターを会場として、「みやぎ農業未来塾【第2回農業力資質向上講座】」を開催し、就農希望者や新規就農者等、合計19人が参加しました。

講座では、株式会社西野農園の代表取締役西野拓氏を講師としてお迎えし、「就農までの経緯とその後のお取組について」と題して講演していただきました。西野氏は名取市に独立自営就農され、様々な野菜



の栽培に取り組まれています。就農までの経緯、おいしい野菜を栽培するポイント、収益向上のための工夫、地域に根差した農業の在り方、就農の心構え等について話していただきました。参加者は熱心に聴講されており、講演後には多くの質問がありました。また、アンケートでは「新規就農者のリアルな話を聞いて非常に参考になりました」「行動力あるのみということ強く感じられました」等の感想が寄せられました。普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成に努めてまいります。

○宮城県農業・農村女性活躍表彰で最優秀賞を受賞されました
令和6年1月26日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年1月11日に開催された「2024 農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」において宮城県農業・農村女性活躍表彰の授賞式が行われ、気仙沼市の三浦悦子氏が女性地域社会参画部門（個人）で最優秀賞を受賞されました。

この賞は、宮城県が、農業・農村において社会参画や起業等で活躍する女性の個人やグループ等を表彰し、広く紹介するものです。

三浦氏は、夫の経営承継を機に就農し、プロイラー経営に従事し、地域のイベントで農業の魅力や楽しさを伝えるなど地域の活性化に貢献されました。また、本吉町（現気仙沼市）において、女性初の認定農業者、農業委員、議会議員となり、女性参画が少ない分野において常に先頭を走り、道を切り開いてきた功績が大きく、さらに、これまでの活動において、家族、特に夫の理解と協力が大きく、誰もが認めるパートナーシップを築いていることも評価されました。

令和6年1月23日、三浦氏が当地方振興事務所を訪れて受賞の喜びを報告されるとともに、女性の社会参画に対する強い想いを述べられました。

今後も農業の活性化及び女性の社会参画に向けて活躍されることを期待しています。

○令和5年度気仙沼地区農村教育青年会議が開催されました
令和6年1月26日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年1月17日に、気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会主催の令和5年度気仙沼地区農村教育青年会議が開催されました。本会議は、農業の中核的担い手を目指し、日頃経営の改善に努めている青年農業者が、プロジェクト活動や営農事例等を通じて得た成果を互いに情報交換し、農業と農村の発展に資することを目的としたものです。当日は、気仙沼地区4Hクラブ会長から今年度の活動実績について報告があった後、イチゴ栽培に取り組んでいる会員から「プロジェクト発表」として、自らのイチゴ経営の課題解決に取り組んだ成果が発表されました。当日は4Hクラブ会員に加え、農業士会や関係機関の方々も参加し、クラブ活動実績やプロジェクト発表に対するコメントやアドバイス等をいただき、今後のクラブ活動や農業経営の改善につながる有意義な会議となりました。

○株式会社館島田ファーム Dero がスタートしました
令和6年1月26日
大河原農業改良普及センター

角田市の館島田地区では、地域農業を維持するため農事組合法人館島田生産組合を立ち上げ、集落営農に取り組んできました。しかし、組合員の高齢化が進み、組織の維持が今後困難になる事が見込まれたため、法人では従業員3名を後継者候補としてこれまで育成してきました。更に、事業継承に伴い後継者が経営権を行使できるよう、農事組合法人の形態を株式会社に変更する準備も並行して進めてきました。

普及センターでは法人からの要望を受け、宮城県農業・経営就農支援センターや（公財）みやぎ産業振興機構とも連携し、各種の専門家の協力を得ながらこの動きを支援してきました。

そして、ついに令和6年1月1日から農事組合法人館島田生産組合は「株式会社館島田ファーム Dero」に生まれ変わりました。令和6年1月20日（土）には第1期株主総会が開催され、新経営陣3名による経営が本格的にスタートしています。

普及センターでは、法人に対してこれからも経営早期安定化に向け、寄り添った支援を続けてまいります。



○農薬適正使用研修会を開催しました
令和6年1月31日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年1月25日、気仙沼地区みやぎ農業未来塾及び女性農業者研修会として、農薬適正使用研修会を開催したところ、認定新規就農者、雇用就農者、女性農業者等9名が出席されました。

講師の公益社団法人緑の安全推進協会の森島靖雄様から「農薬の選び方・使い方」と題し、農薬のラベルの見方など農薬に係る基本的な知識をはじめ、農薬の使い方について具体的な事例を基に丁寧に説明していただきました。

講義内容が分かりやすく、参加者から「とても勉強になった」、「農薬適正使用の重要性を理解した」などの声があり、農薬利用に係る疑問や不安の解消に繋がったようでした。

普及センターでは、今後も新たな担い手の確保・育成に向けて支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「インボイス制度への対応について」を開催しました

令和6年1月29日
仙台農業改良普及センター



令和6年1月23日、宮城県仙台合同庁舎において、みやぎ農業未来塾及び女性農業者活躍支援研修会「インボイス制度への対応について」を開催し、新規就農者や女性農業者など9名が参加しました。

研修会では、佐藤清康税理士事務所の佐藤清康先生から、消費税の基礎、インボイス制度と経過措置・特例、農業分野におけるインボイス制度の影響と、対応方法についてのご講義をいただきました。活発な質疑応答の後、個別の事例相談にもご対応いただき、参加者からは「出荷している直売所からの要請について疑問に思っていたことが解決した。良いことが聞けた。」などの感想がありました。

普及センターでは今後も、新規就農者や女性農業者を支援してまいります。

③園芸産地の育成・強化支援

○宮城県園芸特産振興プラン(石巻地域)の中間検討を行いました！

令和6年1月4日
石巻農業改良普及センター



令和5年12月22日に本年度3回目の石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。

本年は5年計画である「宮城県園芸特産振興プラン」(以下、園芸振興プラン)の中間評価年にあたり、JAいしのみきや石巻市、東松島市とともに園芸振興プランの進捗状況を検討しました。

石巻地域の主要品目であるいちごやきゅうり、トマトやねぎ類などの産出量や販売額の状況などを検討し、高齢化による担い手の減少や資材高騰による経費の上昇、コロナ禍による需要減などの影響を受けながらも、生産活動を維持している農業者の皆様との取組状況を共有することが出来ました。

燃油・資材高騰の影響はなお継続し、農業者の皆様

には厳しい経営の舵取りが求められますが、普及センターでは関係機関と協力し、今後も石巻地域の園芸振興を進めてまいります。

○ぶどう・なしのせん定研修会を開催しました！

令和6年1月4日

大河原農業改良普及センター



令和5年12月18日(月)に「ぶどうとなしのせん定研修会」を JR フルーツパーク仙台あらはまにて、同社 観光農業部専門監 菊地秀喜氏を講師に迎えて、開催しました。

この研修会は、当普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題 No. 3「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動の一環として開催されました。

若手果樹生産者を対象としていたため、講師からは今後の営農計画、規模拡大におけるポイントや、樹種の生理・生態に関する講義もありました。

規模拡大のポイントや樹種の生理生態など、日頃聞く機会が少ない話も多く、参加者と講師の間で活発な質疑応答が行われていました。

研修会は少人数での開催となりましたが、講師からはほぼマンツーマンで指導を受け、参加者は栽培技術・知識を深めるとともに、参加者同士の交流も行われていました。

来月31日には、仙南管内を会場に若手果樹生産者を対象とした、りんごのせん定研修会を開催予定です。

普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向け、引き続き若手果樹生産者への支援を続けてまいります。

○JA みやぎ登米ねぎ部会品種説明会が開催されました

令和6年1月11日

登米農業改良普及センター



令和5年12月20日に、登米市中田町で JA みやぎ登米ねぎ部会品種説明会が開催され、部会員23名が参加しました。

品種説明の部では、トキタ種苗株式会社および有限会社兵藤種苗商事から、夏の猛暑に強い品種について説明がありました。また、普及センターからは、近年増加している大雨や今夏起きた干ばつなどの極端な気象への対策技術について説明を行いました。今夏は気象条件が厳しかったことで被害を受けた生産者が多く、参加者は終始真剣に聞き入っていました。

その後、部会長・副部会長による箱詰めと播種の実演が行われ、次作から新規参入する生産者や資材の更新を考える生産者へ、作業性や実際にかかる時間など細かに解説されました。

普及センターでは、今後もねぎの栽培技術向上と安定生産に向け、支援を行って参ります。

○ぶどうせん定講習会が開催されました！

令和6年1月15日

大河原農業改良普及センター



令和5年12月18日に蔵王町や村田町の生産者を対象に、また12月22日には丸森町農業創造センター主催のぶどうせん定講習会が開催され、普及センターが講師を務めました。

参加者は、蔵王町と村田町が11名、丸森町が20名で、普及センターから、せん定のポイントについて説明した後、実際にせん定作業を行いました。

講習会には、栽培経験の浅い生産者も多く参加しており、残す枝の基準や見分け方等の基本技術に関する質問が多く、講師がせん定作業をしている様子を熱心に観察し学んでいました。

普及センターでは、今後もぶどうの技術習得の支援を行ってまいります。

○栗原市果樹連絡協議会主催のりんごせん定講習会を開催しました

令和6年1月16日

栗原農業改良普及センター



令和6年1月11日(木)、栗原市果樹連絡協議会会員等18名が参加し、栗原市金成小堤にてりんごせん

定講習会が開催されました。

栗原市果樹連絡協議会では、毎年この時期にせんだ講習会を実施し、会員相互の技術研鑽に努めています。当日は、天候にも恵まれ青空の下、対象樹のせんだ方針を確認し、花芽の着生状況を確認しつつ丁寧にせんだ作業を進めました。

せんだは、りんご生産においても重要な作業であるため、参加者からは意見、質問等のほか、相互に意見交換を行うなど、活発な講習会となりました。

せんだを実施した樹は、継続的に生育状況や栽培管理状況を把握して、栗原市果樹連絡協議会の各種検討会で活用していきます。

○「異常気象に負けない野菜生産セミナー」を開催！

令和6年1月17日

石巻農業改良普及センター



令和6年1月10日に石巻合同庁舎において「異常気象に負けない野菜生産セミナー」を開催しました。これは令和5年夏の異常気象による高温で野菜の生産量が著しく減少したことを受けて開催したものです。約100人の参加があり、生産現場の関心の高さが伺えました。

最初に仙台管区気象台の濱浦俊悦情報活用推進官から令和5年夏季の気象経過について情報提供があり「8月から9月の高い海水温」、「ジェット気流の蛇行」及び「太平洋高気圧の本州付近への張り出し」などいくつかの要因が重なり、酷暑につながったとの説明がありました。また、今後の気象は地球温暖化から高温傾向が続くのではないかとの見通しの説明もありました。

続いて、明治大学農学部の岩崎泰永教授からは「異常気象に備えた野菜生産」と題し、高温時の作物は発育量に対して光合成産物が足りず徒長傾向になっていることから、高温下であっても適正な生育を維持する栽培管理が大切との説明がありました。例えば作物が萎れるのでなければ、「遮光」は作物にとって光合成量を減少させるため、一律の「遮光」に対する注意を呼び掛けていました。野菜生産においては施

設や露地で多種多様な品目が栽培されており「高温対策にいわゆる How to はありません」とも明言され、あらためて高温対策の難しさを認識しました。

なんとか解決の糸口や対策を見つけたいと参加者は熱心に講演内容をメモしたり、講師に質問するなどして、活気にあふれたセミナーとなりました。

普及センターでは今後も関係機関や生産者の皆様と協力し、夏の異常気象に有効な対策の検討を引き続き行っていきます。

○JA 新みやぎあさひなねぎ部会の曲がりねぎ出荷講習会が開催されました

令和6年1月23日

仙台農業改良普及センター



令和5年12月7日、JA 新みやぎあさひな統括営農センター主催で曲がりねぎの出荷講習会が行われ、部会員20名程が参加しました。

講習会では、JA 新みやぎの営農指導員が講師となり、ねぎの販売情勢や今後の出荷スケジュールなどについて説明がありました。また、実際に曲がりねぎを用いて、品質のチェックや調整の仕方などについて実演が行われました。

普及センターでは、ねぎ部会の新規就農者に対して、役場やJAと連携しながら定期的な巡回指導を行い、栽培技術向上のための支援を継続しております。

JA 新みやぎの曲がりねぎは12月下旬から仙台市場や札幌市場に出荷され、各店頭に並びます。曲がりねぎは通常の長ねぎよりも柔らかくて甘いのが特徴ですので、皆様是非ご賞味ください。

○南三陸町で令和5年度第3回シャインマスカット栽培研修会を開催しました

令和6年1月25日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼・南三陸地域では、シャインマスカット等の大粒ぶどうの栽培が拡大しており、新規栽培者や栽培希望者も増加傾向にあります。普及センターでは

栽培技術の向上による安定生産を図ることを目的に、令和6年1月15日に今年度3回目となる栽培研修会を開催し、管内のぶどう生産者11名が参加しました。普及センター職員が講師となり、整枝せん定のポイントについて実演を交えて説明をしました。参加者からは、せん定の他、栽培園地に合った樹形の作り方や施肥管理等について質問や意見が寄せられ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○大郷町で令和6年産えだまめの作付計画検討会を開催しました

令和6年1月29日

仙台農業改良普及センター



令和6年1月24日(水)、大郷町粕川において、令和6年産えだまめ作付計画検討会を開催し、えだまめ生産法人6社10名が参加しました。

検討会では、JA新みやぎから令和6年産の出荷方針について、普及センターからは作付計画の検討に使用する作型表について、農業・園芸総合研究所からは次年度の現地試験の概要などの情報提供を行いました。

検討会では、各法人の作業が水稻や大豆と競合せず、早生種から晩生種まで途切れなく収穫・出荷できる播種スケジュールが話し合われ、活発な議論を通して作付計画が概ね固まりました。

昨年のえだまめの栽培面積は約6ヘクタールでしたが、栽培技術の習得などを通して収量や品質が安定してきたこともあり、令和6年産は約9ヘクタールに拡大する見通しで、さらなる産地の発展が期待される状況となっています。

○令和5年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました！

令和6年1月31日

栗原農業改良普及センター



栗原地域における土地利用型園芸作物の生産拡大を目指し、栗原市と新みやぎ農業協同組合と共催で園芸振興セミナーを開催しました。当日は関係者含め70名(うち農業者42名)にご参加いただきました。

今回のセミナーは緑肥および堆肥を活用した土づくりをテーマとして開催しました。緑肥については、栗原地域における土地利用型園芸作物の生産拡大を目指し、栗原市と新みやぎ農業協同組合と共催で園芸振興セミナーを開催しました。当日は関係者含め70名(うち農業者42名)にご参加いただきました。

今回のセミナーは緑肥および堆肥を活用した土づくりをテーマとして開催しました。緑肥については、カネコ種苗株式会社 くにさだ育種農場の西本様にご講演いただき、前半は緑肥を導入するメリットや園芸品目との利用体系について、後半は先進地における導入事例について説明いただきました。堆肥については、当普及センターの野菜担当が堆肥を利用する意味を化学的な面から説明し、畜種による成分や分解性の違いなどについて解説しました。

講演後の情報提供では、栗原市農林振興部より市有機センターを中心に市内の特殊肥料生産業者をご紹介いただきました。また、新みやぎ農業協同組合の園芸担当者より、栗原管内における今後の園芸振興方針についてご紹介いただきました。

参加した生産者からは、次作から緑肥を導入した土づくりに励みたいとの声がありました。また、講演後のアンケートでは概ね好評をいただいております。今回の開催を期待する意見もみられました。栗原農業改良普及センターでは、今後も土地利用型園芸作物の生産拡大に向けて、関係機関一体となり支援してまいります。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○第2回「吟のいろは」栽培研修会が開催されました

令和6年1月31日

美里農業改良普及センター



宮城オリジナルの酒米品種「吟のいろは」について、令和5年産の作柄を振り返り、次作に生かすため、1月24日に「吟のいろは」の栽培研修会（主催：県みやぎ米推進課）が開催され、生産者や関係機関など約40名が出席しました。普及センターから、今年産の生育の経過を中心に説明した後、産業技術総合センターから玄米品質や酒米としての分析結果について説明がありました。酒米として地元酒蔵から評価が高く、次年産は当初の予定から栽培面積を増やして対応するとの説明があり、今後さらに需要が拡大するものと期待が高まっています。

県主催の研修会終了後、普及センター主催で松山町酒米研究会のメンバーを対象に、今年度の酒米全体の生育状況の振り返りと次年度に向けた検討会を開催しました。関係機関と連携して調査を実施した結果について考察し、次年度に向けた課題の検討を行いました。研究会のメンバーからは、次期作の試験設計内容や、生産者や関係機関での情報交換をスムーズに行えるように、メッセージアプリを活用してはどうかとの意見が出されました。

次年度は「吟のいろは」の作付けがさらに拡大する見込みで、普及センターでは、引き続き、酒米の品質の安定化、生産性の向上を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

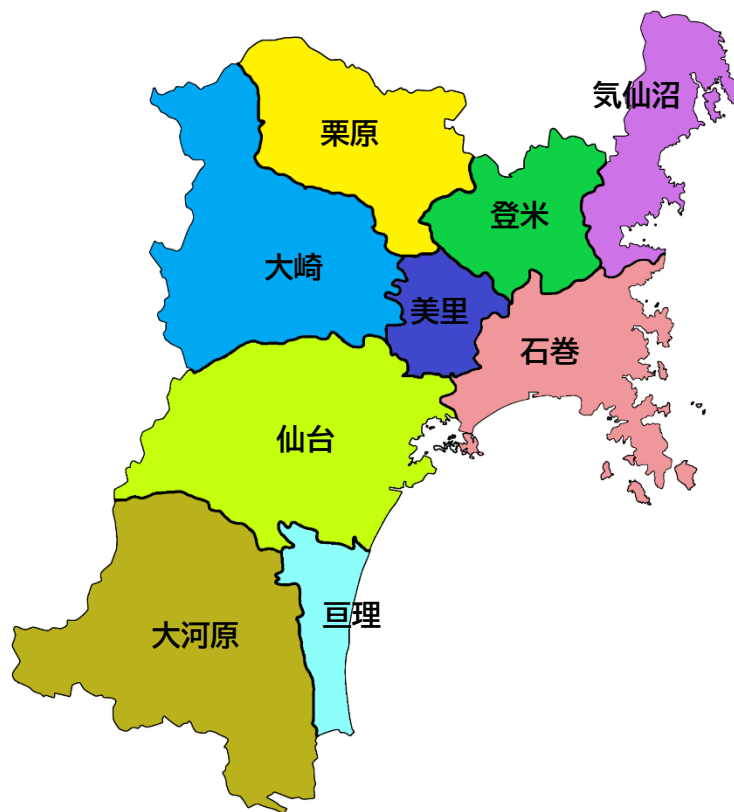
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.204

発行日:2024年2月20日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp